

みんなで支える ふるさとの森づくり

森林には、国土の保全、地球温暖化防止など様々な機能があり、私たちの生活に恩恵をもたらしています。しかし、森林の機能を十分に発揮させるための間伐など、適切な森林整備が課題となっています。

そこで、森林整備に必要な地方の財源として、国から全国の市町村へ「森林環境譲与税」が割当てられています。今回は丹波市の森林環境譲与税の使い方などについて紹介します。

問 農林振興課（春日庁舎内） ☎ 88 - 5029

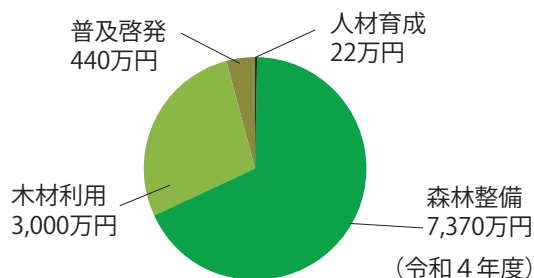


森林環境譲与税活用の4つの項目

昨年度の丹波市へ森林環境譲与税として割当てられた額は、9,616万円でした。森林環境譲与税は、「**森林整備**」「**人材育成**」「**木材利用**」「**普及啓発**」の4つの項目で、活用することができます。

今年度が開校した山南中学校は、森林環境譲与税を活用し、校舎の木質化を図ることで、木材利用の促進をしています。

丹波市の森林環境譲与税の使途内訳



01 森林整備



森林環境譲与税活用の4つの項目

危険木や未整備林の整備

奥地や傾斜が急で険しいことから、未整備となっている森林の間伐や、人家裏の傾斜木などの危険な木の伐採をするなどの、森林整備をしています。

そのほか、地形や森林の状況によって、適切な森林整備が行えるよう、様々なメニューを整えています。今後も地域や所有者のニーズに応じた森林整備メニューを検討し、森林環境譲与税の有効活用に取り組みます。



森林環境譲与税を活用した緊急里山林整備事業により整備した民家裏の斜面

02 人材育成



森林環境譲与税活用の4つの項目

森林づくり協議会

林業関係者による森林づくり協議会を組織し、林業に関する取組の意見交換や情報交流を行い、実効性の高い取組を検討しています。

02 人材育成



森林環境譲与税4つの活用項目

林業事業体等活動促進事業

林業関係の組織に従事する人のスキルアップを目的に、講習会などの参加受講料などの一部支援を実施しています。

03 木材利用



森林環境譲与税活用の4つの項目
公共施設の木造・木質化

市では公共施設において、丹波市産材を積極的に活用する方針を定めた「^{まごころ}丹の木づかいプラン」に基づき、公共施設の木造・木質化を推進する取組を行っています。

■木造・木質化に取り組んだ事業



道の駅 丹波おばあちゃんの里
物産館とフードコートには丹波市産の木材を使用。



山南中学校
各教室や体育館などに丹波市産の木材を使用。ランチルームの内装の一部には檜皮葺を使用。



東アフタースクール
柱や天井、床などに丹波市産の木材を使用。

04 普及啓発



森林環境譲与税活用の4つの項目
林業普及推進員

近年では、「自分の山がどこにあるかわからない」「具体的な整備の仕方がわからない」「山の手入れには経費がかかるのでは」などの悩みを持つ森林所有者が増えています。こうした悩みに対して、行政への「橋渡し役」として林業普及推進員を配置しています。

04 普及啓発



森林環境譲与税活用の4つの項目
ハッピーバースデー応援ギフト事業

市では出生児を対象に「木育」の視点から、市内の木工業者が丹波市産のスギやヒノキを使用して製作した木製玩具をプレゼントしています。



ゾウセット



記念プレート



木のスプーン



積み木セット



木のボックスチェア



企業による地域材活用の事例を紹介 /
FOREST DOOR- 旧神楽小学校 -

平成 29 年 3 月に廃校となった旧神楽小学校では、株式会社フォレスト・ドアが「森の情報発信基地」をコンセプトに事業を展開しています。今年 4 月には同施設内にプライベートサウナ付きの一棟貸しの宿、ウッドヴィラ「心楽-SHIGURA-」がオープンしました。

このほかにも、地元製材業者による「丹波の木の直売所」や、森林整備の相談ができる「森の相談所」、市内木工業者による木製玩具の展示・販売など、様々な木材資源を体感できます。

里山の風景のもとで、忙しい日常を離れて、木に触れ、木で遊び、木に包まれる特別な体験をすることができます。



ウッドヴィラ「心楽-SHIGURA-」